

KOA 株式会社様

「誘導看板の適性サイズ検証のための社会実験」

報告書

2016年1月

NPO 法人三風デザイン

1. 社会実験の趣旨

KOA 株式会社様が風土記街道沿いに設置を予定している誘導サイン（看板）について、異なるサイズのサインを段階的に仮設置し、それぞれのサインの有効性を評価することにより、適正なサイズのサイン設置に導くことを目的として実施。

また、すでに運用が始まっている『三風モデル看板（サイン）デザインマニュアル』の理解促進及び普及にあたり、当社会実験結果を有効利用するとともに、得られた課題と成果を、必要に応じてデザインマニュアルに反映させるものとする。

2. 実験調査の概要

- (1) 調査方法 小・中・大の3種類のサイン（看板）を、仮設置し、誘導サインとしての機能について調査を行う。

- ① 来訪者による目視実験（アンケート形式）
- ② 映像による実験（映像による認知率の比較）

- (2) 調査期間 各サイズ2週間ずつ

- (3) 被験者 KOA 物流センターに初めて来訪する人。
主に工事関係者。

（工事終了後、実際にサインをみるのは配送トラックの運転手）

- (4) 設置場所 広域農道沿い KOA 物流センター敷地の南西角（敷地内）
- (5) 調査主体 信州大学上原研究室+NPO 法人三風デザイン
- (6) 評価と分析 信州大学上原研究室

- (7) 調査スケジュール

平成27年	9/7	～	9/23	小サイズ
平成28年	9/30	～	10/15	中サイズ
平成29年	10/21	～	10/31	大サイズ



3. 調査結果（信州大学農学部上原研究室）

NPO法人「三風デザイン」は、看板の適正サイズを調査する社会実験を行った。広域農道では統一デザインの設置が進められ、普及に向けた課題を探るのが目的である。

本調査では、大きさの異なる看板を実際に取り付け、視認効果などを検証した。

実験1（現地調査）

広域農道沿いへ設置を検討する株式会社KOA(以下KOA)の新設看板について、大(175センチ×63.5センチ)、中(130センチ×47.2センチ)、小(72センチ×33.8センチ)の3サイズの仮設看板を用意して、景観に配慮してどの程度まで最小化できるかを検証した(図1)。

現地における実験1としては、9月初めから同社入り口に3種類の看板を順次設置し、配送トラックの運転手らにアンケートを実施した(表-1)。

その結果、実験期間内にはじめて同社を訪れたドライバーの回答が得られたデータから小サイズの看板はドライバーに認知されない(10%)ことが示唆された(図2)。

また複数回来訪したドライバーのアンケート結果もまとめると中サイズ(7割)と大サイズ(90%)はそのサインに気づくことが明らかになった(図3)。

実験2（ムービー調査）

配送トラックに同乗して現場付近を両方向から撮影し、その動画を用いて、看板の大きさによる認知率を複数人に同時に視聴させその結果を比較した。

1) 予備調査 信大農学部3年生 20名を被験者

大中小の看板のいずれもほぼ気づかれず(5%のみ)(大サイズで1名のみ気が付いた)今回、サイズを違えて設置する比較的小さな三風モデルの看板を知らないの、一般的な道路上部に掲げられる看板を想像して、ほとんどの学生が設置看板を見過ごす結果となった。

2) 本調査 信大農学部2年生 45名を被験者

予備実験での結果を踏まえ、ムービーによる評価実験に先立ち、設置を検討する三風モデルの看板(大(175センチ×63.5センチ)、中(130センチ×47.2センチ)、小(72センチ×33.8センチ)の3サイズ)のイメージ画像を周知した(図1,4)。その上で、大、中、小のムービー15名ずつ(Ex.往路7,復路8)の被験者による認知実験を行った(表2)。各サイズのムービーは以下の条件で2回再生した。

1回目のムービー：50km/hの走行動画

2 回目のムービー：40km/h のスロー再生の走行動画

その結果、1 回目のムービー：50km/h の走行動画では最も大きなサイズの看板でも 50% の被験者しか気づかない結果となったが、2 回目のムービー：40km/h の走行動画では中・大サイズが同程度(60%)に認知された(図 5,6)。

慣れや速度を落とした走行なら中サイズと大サイズは同じ認知が期待できると考えられる。

また、走行方向を変えた認知率の比較からは、走行車線に沿った場所に設置された看板の方が同じサイズでも認知されやすいことが示唆された(図 7,8)。

4. 結論

以上の実験 1 (現地調査) および実験 2 (ムービー調査) からは、もともと従来の看板に比べると最低限のサイズに改善された三風モデルの基準サイズ(本調査の大サイズ)が最も適切なサイズの最小単位であると考えられた。

しかし、本看板を設置する KOA の誘導先が一般のドライバーではなく、取引などがある特定の企業に特化しているため、文字数の簡略化による視認性の改善や、走行車線側への設置などの工夫がなされれば大と中サイズには統計的に有意な差はみられないので、中サイズでの施工も可能であると考えられる。

5. 議論：本実験の社会的な意義

図 9 は本社会実験に対する大学生の評価の結果を示している。この結果のように、KOA の実験を 100% の学生(n=45 名)が評価しており、デザイン統一についても約 78% (3/4 以上) が肯定的に評価する結果となった。

KOA の利用者に対する親切看板について、既存の大規模な看板に比べると小さくデザインされた三風モデルを応用し、さらに小サイズ化を図ることは、ドライバーにとっては若干、わかりづらくなるデメリットが存在するが、その取組を通じて伊那谷の景観を改善することや、その取組を地元企業が率先して導入することに対する社会的な評価や意識の改善効果は高いものがあると結論づけられる。

大、中、小の看板を設置し、それぞれ車内（トラック）から撮影。



大サイズ看板の検証

